

糸に映す和のかたち

私たちが知る「和」は、幼い頃から教科書や本の中で、完成された美しさとして語られてきた。しかし、本当の「和」とは、完成された形だけではなく、それを築き上げてきた人々の手の跡や、知恵、工夫が幾重にも重なり合う軌跡そのものではないだろうか。
私は、「和」が築き上げてきた軌跡を、一本一本の糸として可視化することを試みる。交差し、織り重なる無数の糸は、人々が紡いできた歴史や想いを映し出しながら、空間に新たな息吹をもたらす。そこには、まだ名もなき「和」の形が、生まれるかもしれない。

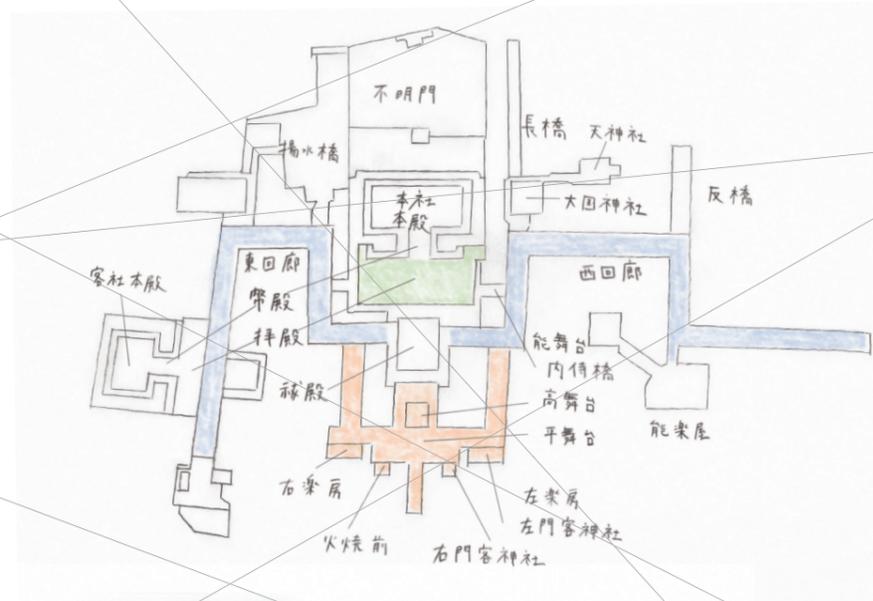
糸景

和の軌跡を「糸」として可視化し、その重なり合う様を「景色」として映し出す。
糸が交差し、結ばれることで、和の空間の持つ自然・文化・信仰・時間が織り成す「和」を浮かび上がらせる。

厳島神社

空間を彩る例として、厳島神社を挙げる。厳島神社は、豊かな自然に囲まれ、古くから信仰を集めてきた。近年では観光客も増え、その魅力がさらに広がっている。この厳島神社の「和」を可視化することで、朱色の建築様式をより際立たせながら、新たな和の表現をつくる。

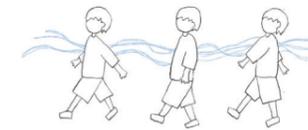
信仰



自然

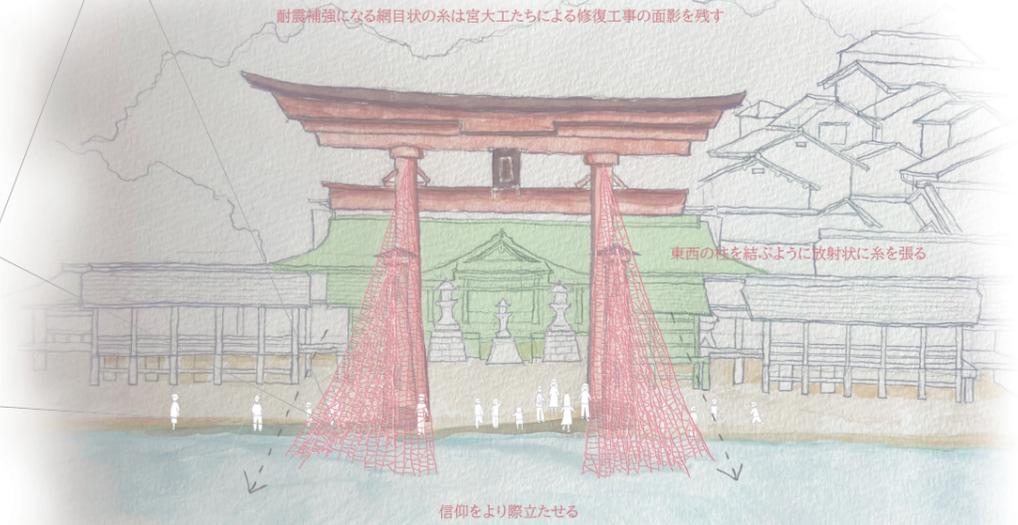
西回廊

厳島神社の本社を囲む回廊で、潮の干満に対応する高床式の構造。参拝者はこの回廊を歩いて社殿を巡る。



厳島神社の回廊を歩く。糸を介して建築を見ると、厳島神社の自然と響き合う姿や歴史の奥行きを感じることができる。

時間



大鳥居

海上に建つ神社の象徴で、満潮時は水に浮かぶように見え、干潮時は歩いて近づける。

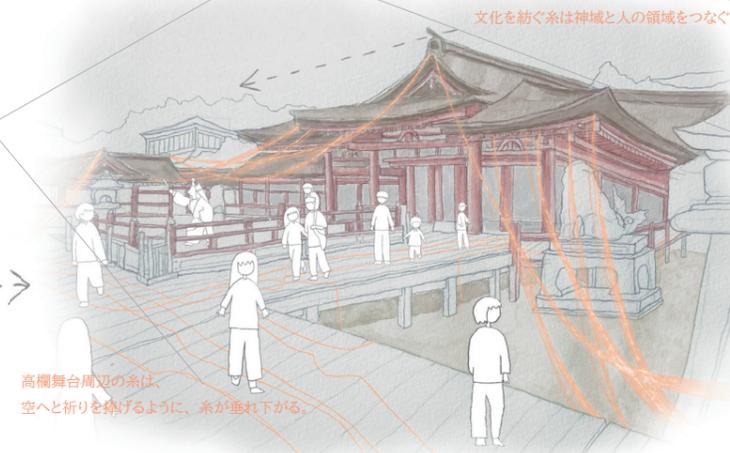


満潮時には、東西の柱が膨らみ、まるで水に浮かぶようにたゆたう。



干潮時には潮が引き、地面に張られた糸が本殿への信仰を示すかのように広がる。

文化



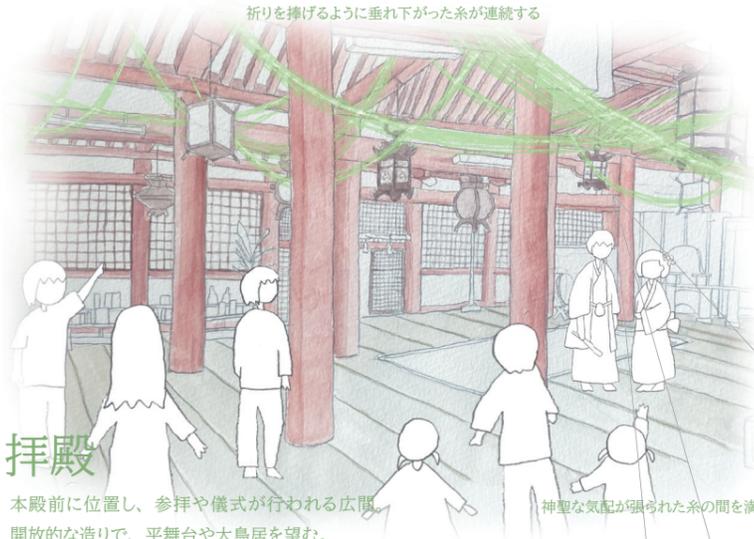
高欄舞台周辺の糸は、空へと祈りを捧げるように、糸が垂れ下がる。



床には舞楽の動きや太鼓の音を模した糸が張り巡らされている。その糸が床を巡ることで、長い歴史を持つ舞楽の精神が未来へと継承されていく。



祈りを捧げるように垂れ下がった糸が連続する



拝殿

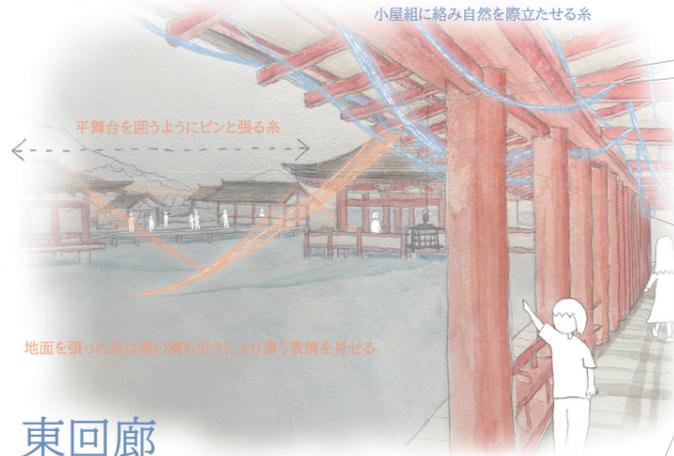
本殿前に位置し、参拝や儀式が行われる広間。開放的な造りで、平舞台や大鳥居を望む。

神聖な気配が張られた糸の間を満たす



祈りの糸は垂れ下がりがながら交差する。それは過去・現在・未来の祈りをつなぎ、時を超えた対話を生み出す

小屋組に絡み自然を際立たせる糸



平舞台を囲うようにピンと張る糸

地面を張った糸は潮の張り引きにより違う表情を見せる

東回廊

神々への感謝と祈りを行う高欄舞台を中心に糸が広がる



平舞台

海に面した広大な舞台で、舞楽や神事が行われる。潮が満ちると海に浮かぶように見える。